■ 北海道情報大学学内報

ななかまど

NANAKAMADO

オンネトー（足寄町）

秘奥の滝（新得町）

● 目　次 ●

ファインマンさんと私と新入生諸君 ·····2
学長　大野公男

情報メディア丸の出航にあたって ·····3
情報メディア学部　学部長　宇都宮芳明

海外訪問記　助教授　高野俊夫 ·····4

お世話になりました ·····5～7

大学生活を振り返って ·····8～9

人事紹介・広報活動 ·····10

主要行事・編集後記 ·····10

発　行・北海道情報大学
〒069－8585　江別市西野幌59-2　TEL011－385－4411　FAX011－384－0134

ファインマンさんと私と新入生諸君

学長　大野公男（おおのきみお）

ある日私のメールボックスの中に、2冊の本が入っていた。一冊は、小平邦彦著「怠け数学者の記」、もう一冊は、Richard P. Feynman "The Pleasure Of Finding Things Out"。共に経営学科の斎藤教授からで、前者は、「ななかまど 16号」の私の"思い出すことなど"で小平先生の思い出に触れてあったから、後者は昨年7月に"Feynmanの飛び級"についてお話したことがあったからと言うお手紙が挟み込まれていた。斎藤先生の記憶の良いのには、驚いた。

ファインマンの名前は、"広辞苑"にちゃんと載っていて、"アメリカの理論物理学者。ファインマン・ダイアグラムを創始し、量子電気力学の完成に貢献。第二次大戦中は原子爆弾開発計画に従事。ノーベル賞。(1918－1988)"とある。ちなみにノーベル物理学賞の受賞は1965年で、朝永振一郎、J.Schwingerとの共同受賞だった。

ファインマンさんの著書（共著を含む）は、18冊の多数に登るが、勿論専門の物理に関するものが多い。しかし専門外の著書（題名から推定）も、上掲のもの以外に4種類ある：

The Meaning Of It All：Thoughts Of a Citizen-Scientist

Surely You're Joking, Mr. Feynman！ Adventures of a Curious Character

What Do You Care What other People Think？

Further Adventures of a Curious Character

この他に、ファインマンさんの人生を一般の人向けに書いた図書として、

James Gleick：GENIUS：The Life and Science of Richard Feynman

があり、大貫昌子さんの訳によって、岩波書店から、岩波現代文庫「ファインマンさんの愉快な人生 Ⅰ、Ⅱ」として発行されている。同文庫には、この他に「困ります、ファインマンさん」（R. P. ファインマン　大貫昌子訳）も発行されているが、これは現物が手許にないので、原題が判らない。物理の本では無いであろう。

実物のファインマンさんにお会いしたのは、一回しかない。1953年、もう半世紀近く前の話である。第2次世界大戦以後、初めて日本で開かれた国際会議に来日されたファインマンさんは、頗る精力的で、西の方から、次々に主要な大学で講演し、物理教室を訪問された。吾々はこれを"ファインマンの爆撃"と戯れに呼んでいた。東京では化学の階段教室で講演された。確か"格子振動"の話で、"ブウーン、ブウーン"と大声で節を付けて、唱えられたのが印象的だった。ドラムの名演奏家として著名だとは、後になって知った。小谷研究室にも来られて、私も生まれて初めて英語で研究の話をさせられた。量子化学のテクニカル・タームは知らなくても、それを説明すると、何を問題にしているかは直ぐ判って、自分の意見を述べられる。凄く頭の良い方だと感服したことも覚えている。

当時のファインマン先生と私の差に較べれば、新入生諸君と現在の私の持つ学力の差は、微々たるものであろう。諸君が、これからの本学の4年間で、私を追い抜くことは容易であろうし、そうなることを念願するものである。

情報メディア丸の出航にあたって

情報メディア学部　学部長　宇都宮(うつのみや)　芳(よし)　明(あき)

4月1日、これまでの経営情報学部に加え、情報メディア学部という独立した新しい学部が誕生しました。新造船情報メディア丸の運行開始です。そこでこの機会に、この新造船がどのようにしてできたか、その過程をたどってみましょう。

平成10年5月8日、経営情報学部の教授会において、当時の三枝学長から学部増設にかんする諮問がなされ、これを受けて、久野学部長を委員長とする検討委員会が設置されました。委員会は、「地域社会の要請に応え、かつ当学園の創立理念に立脚し、さらに既存の経営情報学部との両立性を考慮したうえ、将来的には情報系の総合大学化を目指す斬新的学部を想定して、慎重な討議を重ねた」結果、同年7月7日、検討結果を一通の答申書にまとめて提出しました。答申書では、新学部の名称を「情報メディア学部」とし、設置する学科を「情報メディア学科」とすること、またこの学科に「表現メディアコース」、「ネットワークメディアコース」、「応用メディアコース」の三つのコースを置くことが提言され、さらに一般教育と専門教育の双方にかんする開講課目(カリキュラム)も提示されました。ここに新造船の設計図が描かれたわけです。

平成11年に入り、5月以降、この設計図にしたがって、文部省に設置認可を求める書類が作成され、9月28日、この書類は文部省に提出され、受理されました。これは船の起工に当たるでしょう。書類は大学設置審にまわり、翌平成12年、数度にわたるヒアリングや実地調査があり、検査もパスして、12月21日、文部省から正式に設置の認可がおりました。船体の完工です。

船体工事と並んで、船を操るクルーを決める作業も行われました。その結果、クルーの総員は、学部完成年度の平成16年には、専任教員23名、兼担教員23名、兼任教員30名になることが確定しました。

運行態勢が整ったので、最初の乗客の募集がなされました。完工から出航までわずか3ヶ月しかありませんでしたが、それまでの関係者の努力により、予定していた乗客数を確保することができました。こうして情報メディア丸は出航にこぎつけたのです。

さて、港の外は、けっして穏やかな海とは言えません。そこには不況下の企業再編に伴う就職難という大波が押し寄せていますし、また乗客の確保を難しくする少子化という横波もあります。船はこうしたさまざまな波を乗り切り、乗客をそれぞれ無事に目的地へと向かわせなければなりません。そのためには、クルー全員が一体となって、安全な運行に努めることがなによりも大切です。また乗客一人一人の自主性を重んじ、それを生かすためには、乗客一人一人に対する乗組員のきめ細かい配慮も必要でしょう。この船はたんなる遊覧船ではなく、乗客を教育するいわば実習船なのですから。

船内の艤装にしても、まだ完全とは言えません。少人数教育や美術教育のための教室の整備や、部活動のための施設や部屋の整備なども進める必要がありましょう。豪華船にあるきらびやかなホールやサロンは必要ないにしても、乗客が集まって（時には乗務員も加わって）アイディアを交換しあうような、パソコン配置の喫茶ルームぐらいはあってもよいのではないでしょうか。船内の居住環境がよければ、乗客は誰でも満足するでしょう。いまや口コミ（ケータイコミ？）の時代です。満足した乗客は、後に続く人々にもこの情報メディア丸に乗船することを勧めるに違いありません。これは少子化の波に耐える有力な方途だと思います。

さしあたって私はこの船の船長役を務めますが、針路の決定に際しては、航海長役の中岡先生をはじめ、多くの先生方のご協力を仰がなければなりません。航海の経験を積んだ経営情報丸のクルーの方々からも種々ご助言を賜りたいと存じます。では、ご一緒にグラスをあげて、この新造船の出航を祝し、前途の航海の安全を祈念して乾杯いたしましょう。乾杯！

海外訪問記　メキシコを訪ねて

経営情報学部　助教授　高野俊夫

「山高帽子をかぶった、口数の少ないインディオの女たちが立っていた駅、あれはどこへ行ったんだ」（ガルシア・マルケス『族長の秋』）

昨夏、カナダ経由でメキシコシティを訪ねた。エアバスA319機で、トロント→ケンタッキー州→ニューオーリンズ→メキシコ湾→メキシコシティのコースで4時間半かかった。機内では、英語・フランス語・スペイン語で放送があり、機内食として、メキシコゆかりの豆料理が出された。眼下の風景の展開は、利用され尽くしたアメリカの国土、ついで煌くメキシコ湾、やがて深緑の険しい山地が現われ、遂には悪名高いスモッグの暗幕を振り払い、無事到着。

ところが、国際交流基金の所長をしている友人に2週間前に出しておいた手紙は届いていないらしく、迎えはなかった。

まずは、定跡通り、両替商でUSドルをペソに替え、タクシー乗り場へ。この間、英語はほとんど通じず、地名や単語だけが通じる模様。アメリカという大国の隣りにありながら、それも国際空港の中で英語がほとんど通じない手強さにかえって感心した。気を取り直し、ソナ・ロッサという観光地区の一角にある予約済みのホテルへ。

早速探訪に出て仰天した。1区画ごとに、小銃やライフルで武装し、防弾チョッキを着た警官がいたのである。思わずスペイン語で「助けて」と呟いた。実は、この過剰とも思える警備はメキシコの治安の悪さと観光立国振りを物語っていると後から教えられた。幸い、手紙の気付となっていた日本大使館を捜しあて、国際交流基金のオフィスと連絡をとってもらい、友人と10数年振りの再会を果たしたのである。

主な訪問先の素描に移ろう。まずは、この旅の主目的の国立人類学博物館について。チャプルテペック公園の一画にある2階建ての瀟洒な建物で、メキシコの地域と時代の区分を交差させ、考古学・民族学関連の展示がなされている。圧倒されたのは、館正面に鎮座する直径3.6mの円盤状の石にアステカの暦が彫り込まれた「太陽の石」であった。オルメカの巨大人頭像にも素朴な味わいがあった。ただ案内版の大部分がスペイン語だけだったのは残念だった。

ついで、すぐ近くの近代美術館も見学した。メキシコで最も有名なシケイロス（1896－1974）を見たかったのだが、恐らく他を圧し、迫力のある絵が彼のものだろうと予測していたが、それ以上に、インディオを描いた筆の力強さに感銘を受けた。彼の絵画は、メキシコ革命を経て、1920～30年代に開花したメキシコ・ルネッサンスと呼ばれるメキシコの風土に根差した文化運動を具現したものだそうだ。

翌日、運転手と車を拝借して、メキシコシティから北東へ50kmのところにある新大陸最大の遺跡のテオティワカンを訪ねた。道すがらこの国原産の丈の低いトウモロコシ畑やサボテンの群生が目についた。

この遺跡には、世界第3位の規模のピラミッドがあり、急勾配の石段を恐る恐る上っていくと、頂上は平坦で、360度の眺望からは、海抜2240mの盆地の中にいるのがよくわかる。この遺跡は、紀元前200年頃～後8世紀位まで続き、最盛期20万人を超える人が住んでいたとのこと。(注) 日本では、弥生から奈良の頃だろうか、古墳にも劣らぬ規模のピラミッドに驚嘆した。最近のDNA分析による研究では、インディオの祖先とわれわれの祖先（特に縄文人）との近縁性が深いことが明らかになりつつあり、驚きと同時に何やら懐かしさを感じたものである。

わずか3日間の滞在の別れに際し、友人は「この次は一緒に田舎の方へ行きましょう」と言って、1枚のメキシコ音楽のCDを土産にもたせてくれた。9月に入り、もうすぐ雨季が終わるということだった。

(注)
テオティワカン遺跡のデータについては、寺崎秀一郎著『古代マヤ文明』河出書房新社、1999年、による。

太陽のピラミッド（高さ63m）

お世話になりました

本年3月で、4人の先生が退職される事になりました。退職される先生方に、一言づつ、ご挨拶を戴きました。　(掲載は順不同)

『卒論指導の想い出』

前経営学科　教授　佐久間　安　世

平成9年に就任以来、僅か4年足らずの短い期間ではありましたが、私の永い人生の中で最も有意義で、研究の機会も充実していたと感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

在任中、最も気を使い、エネルギーを費やしたのは通信教育部の卒論指導でした。顔の見えない学生に、難しいことを、やさしく教える難しさを実感しましたが、学生も同様だったろうと思います。以下、私の卒論テーマについて若干の感想を述べてみます。

卒論テーマは「わがふるさとの商店街活性化策を提案する」でした。このテーマにしたねらいは幾つかあります。

第1に、就職間近の学生の実社会体験です。作業は特定した商店街に関連する資料を役所、商工会議所、商店街組合等で収集することから始めます。これらの部署は極めて忙しく、突然伺っても対応してもらえにいく。目的を話して日時のアポイントをとり、出直しです。人に合うマナーの重要性を認識したようです。

第2に、商店街や各個店をカラー写真で表現し、簡潔な評価と改善点をコメントさせました。これが商業者達に緊張感を与えたようです。

第3に、就職試験の面接で聞かれる卒論テーマに、試験官から「面白い。難しいことによく取り組んだね」と褒められ、就職が決まった学生が何人もいたようです。

第4に、就職した企業に活性化の提案ができる人財になってほしい期待です。資料の収集分析から提案に結ぶ一連のプロセスは、就職先で根拠のある提案に応用できます。

このテーマは、学生も私も想像以上に苦労しました。しかし面接指導での学生達は、明るい満足感があふれていました。

『退職によせて』

前経営学科　教授　金　塚　高　次

40年余勤務した室蘭工大を定年退官し、自然環境に恵まれた本学に就任してから7年になろうとして

お世話になりました

いる。はじめは通信教育課程の要員として採用されたが、その後山口先生の後任として生産管理論を、大学院では品質管理特論を担当した。

工大時代は、触媒関係の仕事をしていました。研究途上での難点の一つに触媒性能評価における再現性の問題があった。触媒は生きものであるといわれるほど調製上の要因が多く、性能変化が著しい。一定組成で触媒を調整し一定条件で反応させても特性値である変化率、選択率が変動する。このバラツキを少なくする方法として統計的手法があり、またできるだけ少ない実験回数でより多くの情報を得る手法として実験計画法があることを知ったのは研究着後間もなくである。その頃既に地元の新日鉄室蘭がデミング賞を受賞していた。その後工学教育においては固有技術の他に管理技術も必要であるとの見地から東京工大の水野研に国内留学する機会に恵まれ、帰学後は研究分野も触媒工学と管理工学を平行して進めてきた。

はじめは自分のためと思って勉強してきたことが、教育と研究に反映でき、ＱＣ活動の啓蒙普及を通じて道内ＱＣ界の発展に多少とも寄与できたことは、この上ない喜びである。卒業生の中には企業の品質保障部門やＱＣ推進部門の重要な地位で活躍している方も多い。そのような姿に接しこれが教師冥利に尽きるというものであろう。本学での教育活動を含め、生き甲斐のある楽しい人生を送らせていただいたことに、深く感謝したい。

長い間教職員の皆様方から頂いた数々のご好意に心からお礼を申し上げると共に、本学の益々の発展を祈念して、退職にあたっての辞とする。

『退職に際し』

前情報学科　教授　西　辻　　昭

私は情報大学に平成６年４月に赴任しました。春四月の新学期には、通学での講義や通信教育に於ける放送授業の手当てに急がしく、新しい事が多かったために、大学での研究に着手する迄に到りませんでした。

平成７年からは、急に情報学科の科長に任ぜられ、殆ど手探りで科の運営に当たることになり、目当の研究課題は平成８年になって漸く「経済予測」と定める事が出来ました。

この課題の決定には、私が昔からモンテカルロ法を用いた非線型計算を手掛けていた事および米国の論文や報告書の中に複雑系の問題として経済が取り上げられていたのがその理由です。

そこで、「経済予測」の研究は平成八年から始まり平成11年３月迄行いました。この時期の学生は卒論の中で仕事を分担し、資料の収集には随分協力してもらいました。今も、思い出しては、当時を懐かしんで居ます。

しかし、「経済予測」に用いた資料の精度が不足して居る為に、實際に用いたモデルではシミュレーションの流れを確定する事が出来ず失敗に終わりました。

お世話になりました

それ以後、この研究を棚上げにしてしまい、現在に到りました。誠に残念で心残りの一つです。

平成11年3月に退職し11年度・12年度と2年間は講義だけに専念する事になり、担当して居た産業技術論を改善する事にしました。理由は、産業技術が環境技術と無縁でなく、両者を考えた講義をする必要があったからです。この点に就いては、良かったと思う今日この頃です。

退職に際し、皆様の御活躍を祈念して居ります。

『13年間の思い出』

前経営学科　助教授　大　西　清　彦

私が北海道情報大学に赴任してきたのは、1988年11月12日であり、肩書きは設立準備室委員であった。当時はまだ昭和の時代であり、私もまだ20代の若き青年？であった。現在は平成の時代であり、2000年紀、そして何といっても21世紀である。かくいう私も今年から40代に突入した。ソ連東欧の消滅、バブルの崩壊、金融機関の倒産など社会経済面においても激動の時代であった。このような状況のなかで過ごした情報大での13年間の生活は、少し大げさに言えば、私の人生において1つの時代を形成したのであり、ひとことではくくりきれない面がある。

教育面での思い出は、何といっても9期の卒業生を送り出したゼミナールでの思い出がとくに印象的である。私のゼミナールでの教育は試行錯誤の連続であった。ゼミナールをいかにうまく運営するかは、私の教員生活における最大の課題であったと言えよう。あるときは厳しく、またあるときは甘くなど様々な方法は試みたが、1つの成果として得られたことはいかに学生にインセンティブを与えるかということであった。インセンティブの与え方によって学生は生き生きもするし、死にもする。問題点を自ら設定し、その解決法を自ら考え出す。この方法を導入することによってゼミナールは劇的に変わった。学生の議論が活発になるのはもちろんのこと、学問に対する意識も大きく変わったのである。

研究面での思い出は、1994年の2月に博士の学位を修得したことであり、その5年後にその論文を「財務公開思想の形成」（森山書店）というタイトルで、出版できたことである。すなわち、情報大における研究生活は、この著作に集約されたと言ってよい。

このように情報大での13年間の生活は、私の教育者、そして研究者として基礎を築くための最大の機会をあたえてくれたと言っても過言ではないであろう。この点について大学にどの程度の貢献ができたかどうかはわからないが、感謝の気持ちでいっぱいである。最後に大学のますますの発展と皆様のご健康を祈願して筆を置きたいと思う。ありがとうございました。

大学生活を振り返って

○　経営情報学部　情報学科　池田　香里

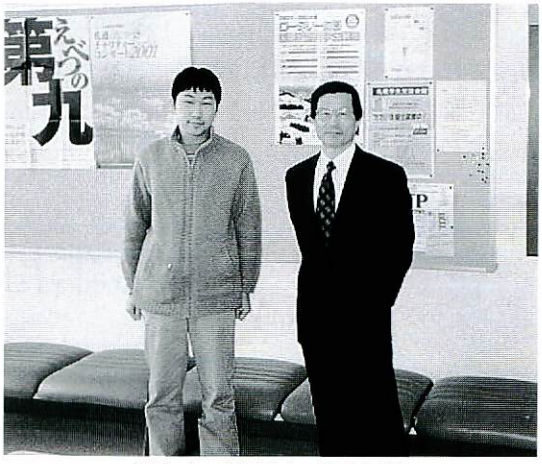
月日の経つのは早いもので、札幌に来てもう4年になりました。この4年間でいろいろなアルバイトを経験したり、いろんな所に行ってみたり、私なりに充実してましたが、勉強だけは充実出来なかったかも。
（笑）これから頑張ろうっと！　うん。

『池田さんは、就職課のアルバイトもやっていただき本当に助かりました。
池田さんなら、どんな職場でも活躍出来るだろうね。私が保証します。』

（池田さん）

○ 経営情報学部　情報学科　佐藤　　純

この4年間は私にとって充実したものでありました。これもお世話になった中岡先生やゼミの仲間のおかげです。有り難うございました。
また、就職課の方々が相談にのって下さったこともあり、就職活動も満足いくものとなりました。
この大学でのことを糧として社会人生活を送っていきたいです。



（左から、徳田くん、外山先生）

○　経営情報学部　情報学科　徳田　栄一

情報大学での4年間は、いろいろな経験をしました。
専門的な勉強やサークル活動、アルバイトなど今までの人生の中では、経験していなかったことが4年間に凝縮していました。
また、ゼミの外山先生には、自分の将来を決めるきっかけとなったお話を聞けたことは、学生時代の財産だと思っています。

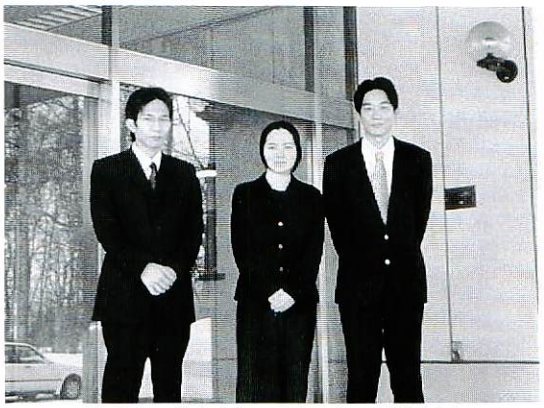
『徳田君には、いつも就職課のお願い事に協力していただき、大変お世話になりましたね。
そしていつも周りのことに気を配る姿がとても印象的でした。』

『佐藤君、早い時期に数社の内定をもらい、目指す企業に決まって本当に良かったですね！
大学のホープとして頑張って下さい。』

○　経営情報学部　情報学科　大野　友紀子

この4年間でたくさんの方にお世話になりました。　浜渕先生、就職課の粂川さん、図書館の佐藤さん、通信棟のみなさん、名前を挙げきれない程です。
有り難うございました。
そして最後に、離れた地に出してくれた両親に感謝します。

『とにかく大野さんが書く履歴書は、内容もすばらしく美しいのにびっくりしました、流石、几帳面な大野さん！』



(左から、武市くん、田中さん、見國くん)

○　経営情報学研究科　見國　文啓

「きつかった！」につきると思いましたが、見つめ直してみると、自信を持てるようになり先生方の理解と良き先輩に恵まれて、有意義な生活を送ることが出来たと思います。

『いつも夜遅くまで頑張ってましたよね。きっとその努力は社会で大きく発揮できるものと信じてます。　期待してますよ。』

○　経営情報学部　情報学科　岡林　美紀

大学生活も無事終了し、今日晴れて卒業することができました。
就職課の粂川さんと4年間大学に通わせてくれたお母さんには、とても感謝しています。
お世話になった方々、今までどうも有り難うございました。

『岡林さんは、いつも明るくて努力家でしたよね。職場の花になるのは、きっと間違いないでしょう！』

(左から、佐藤くん、岡林さん、大野さん)

○　経営情報学研究科　武市　喜博

2年間という短い期間でしたが、学部時代とは異なり密度の濃い年月でした。
この2年間で身に付けた学問、生活のスタイルは社会人になっても役立つと思います。

『武市君には本当にいろいろお世話になりましたね。北海道に帰ったときは是非大学に寄って下さい。　待ってます。』

企画コメント：就職課　粂　川

◆◇ 教職員の動向 ◇◆

☆ 法人本部 ☆

◇職員人事◇

(採用)4月1日付　財務課　加藤なつ子
総務課　繁永恵理子

☆ 大　学 ☆

◇教員人事◇

(退職)3月31日付

特任教授　金塚　高次　　特任教授　西辻　昭
特任教授　佐久間安世　　助教授　大西　清彦

(採用)4月1日付

教授　尾崎　弘之　　講師　石井　勝
教授　加納　邦光　　講師　斎藤　一
教授　新保　勝　　講師　棚橋　二朗
教授　藤家　壮一　　講師　中島　潤
教授　浪田克之介　　講師　柳　信一
教授　山口　忠　　講師　山北　隆典
助教授　隼田　尚彦

(昇任)4月1日付

教授　伊藤佐智子　　教授　加藤喜久子
教授　山本　哲二　　教授　玉置　重俊
教授　冨士　隆

(配置換)4月1日付

情報メディア学部

教授　宇都宮芳明(経営情報学部教授)　坂上　修二(経営情報学部教授)　伊藤佐智子(経営情報学部助教授)
中岡快二郎(経営情報学部教授)　三本木　孝(経営情報学部教授)　吉田　廸弘(経営情報学部教授)
山本　哲二(経営情報学部助教授)　前田　隆(経営情報学部教授)　若林　久二(経営情報学部教授)
井野　智(経営情報学部教授)
助教授　田城　徹雄(経営情報学部助教授)　野澤　譲治(経営情報学部助教授)　廣奥　暢(経営情報学部助教授)
講師　田中　英夫(経営情報学部講師)

(併任)4月1日付

経営情報学部長　久野　光朗　　情報学科主任　林　雄二
情報メディア学部長　宇都宮芳明　　情報メディア学科主任　中岡快二郎
学生部長　坂上　修二　　教養主任　立花　峰夫
経営学科主任　浜渕　久志

◇職員人事◇

(採用)4月1日付　学生課長　山地　博之
(配置換)4月1日付　学生課学生係　中村　正志(教務課学生係)
教務課　上田さゆみ(電算課)

◆◇ 12月～3月主要行事 ◇◆

☆ 大　学 ☆

1月4日(木) 新年交礼会
19日(金) 教授会
20日(土) 大学入試センター試験
21日(日) 大学入試センター試験
25日(木) 情報メディア学部推薦入学試験
2月4日(日) 一般1期入学試験
9日(金) 教授会
2月17日(土) 大学院2次募集選抜試験
3月2日(金) 教授会
7日(水) 一般2期入学試験
14日(水) 教授会
16日(金) 学位記授与式
(経営学科110名、経営学科109名、大学院　9名)

☆ 通信教育部 ☆

＜授業関係＞

1月11日(木)～15日(月)　後期印刷授業科目試験
2月13日(火)～16日(金)　冬期スクーリング(ニセコ)
3月15日(木)　再試験

＜入学選考＞

1月19日(金) 第4回入学選考
2月16日(金) 第5回入学選考
3月9日(金) 第6回入学選考
3月27日(火) 第7回入学選考

＜その他＞

3月23日(金)　学位記授与式

◆◇ 広報活動 ◇◆

・平成13年春期合同入学説明会(通信教育)

2月10日(土) 東京
11日(日) 新潟
17日(土) 大阪
18日(日) 名古屋・広島
2月24日(土) 東京・札幌
25日(日) 仙台・札幌
3月3日(土) 大阪・福岡
4日(日) 名古屋・福岡

・高校訪問

2月6日～20日　石狩地区

・TVCMスポット

1月1日～2月28日　STV、HTB、HBCにて放送

◆◇ 主な来校者 ◇◆

1月10日(水) 留辺蕊高校教員1名
1月24日(水) 江別市野幌鉄南地区街づくり会議御一行　10名
3月8日(木) 豊浦高校教員1名
3月21日(水) 茨城県立水戸工業高校教員1名

訃　報

本学助教授約仕憲一郎氏は、平成13年1月4日45歳にて逝去されました。氏のご功績と遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

新世紀になって、はや3ヶ月がすぎました。月日が経つのは本当に早いものです。さて、この3月4人の先生が退職されました。長い間本当にありがとうございました。ご苦労様でした。ところで、今年の冬の寒さは本当に厳しかったですね。毎日のように氷点下10度を記録したときは、どこか南国に引っ越ししたくなるような気分でした。寒いから、「食べ物がおいしいのさ」と強がってはみても寒いものは寒いという現実には勝てませんでした。まもなく春本番、本学にも21世紀初の新入生がやってきます。情報メディア学部もスタートしました。本学がますます「IT産業」の中心軸になれますよう念願しております。(S)

北海道情報大学学内報
「ななかまど」第19号

発行日　平成13年4月1日
発　行　北海道情報大学
編　集　学内報編集委員会